

外国人の就労と生活に関する実態調査 アンケート調査の単純集計結果報告 *

A Survey on Work and Livelihood of Foreigners in Japan: A Summary

依光正哲（一橋大学大学院 社会学研究科教授）
石崎直一（一橋大学大学院 社会学研究科修士課程）
金 昇謙（一橋大学大学院 社会学研究科修士課程）
黄 英蓮（一橋大学大学院 社会学研究科博士課程）

はじめに

本稿は平成 14 年 7 月に実施した在日外国人に対するアンケート調査の集計結果である。本調査の対象者は、特定非営利活動法人シェア = 国際保険協力市民の会¹が東京都板橋区大山大で実施した無料結核検診・健康相談会に訪れた外国人である。

調査の主体は、文部科学省科学研究費・特定研究領域 B「世代間利害調整に関する研究（PIE）」の計画研究（A4）「少子化および外国人労働をめぐる経済理論的・計量的研究」の研究分担者である依光正哲を中心とする研究グループである。このグループは以下のメンバーで構成されている。

依光正哲（一橋大学）、倉田良樹（一橋大学）、三好博昭（三井情報開発（株））、佐野哲（日本労働研究機構）、宣元錫（一橋大学）、山田優（国際基督教大学）、黄英蓮（一橋大学）、西野史子（一橋大学）、伊能まゆ（一橋大学）、津崎克彦（一橋大学）、金昇謙（一橋大学）、石崎直一（一橋大学）、菅谷元英（国際基督教大学）

この研究グループは、これまでにさまざまな調査・研究をおこなってきたが²、平成 14 年度は、ベトナム難民調査を昨年度から継続して実施するとともに、非正規滞在の外国人に関する調査を実施した。本報告は、非正規滞在の外国人に関する調査の一部をとりまとめたものである。

* 本稿の執筆にあたり、アンケート結果のデータ入力、集計、グラフの作成を主として石崎、金、黄が行い、ドラフトの作成を石崎が行った。ドラフトの加筆・修正を依光が行い、本研究を推進している研究グループの研究会で検討した。これらを受けて、最終的な調整を依光が行った。

¹ シェア（Services for the Health in Asian & African Regions）は 1983 年に設立された組織であり、途上国への保健医療の協力を行うために、海外に医師・看護婦等を派遣し、東南アジアでの HIV 感染の予防のための保健活動などを行っているが、日本国内においては、医療にアクセスが困難な外国人のための出張医療相談や電話医療相談などを行っている団体である。（<http://www.ne.jp/asahi/share/health/aboutshare.html> 参照）

² これまでの研究成果の一部は「世代間利害調整研究プロジェクト」のホームページにディスカッション・ペーパーとして発表されている（<http://www.ier.hit-u.ac.jp/pie/>）。

第1節 アンケート調査の経緯と調査の実施

外国人労働者の調査はこれまでにかなり蓄積され、問題点も明らかになってきている。しかし、非正規滞在者の就労・家庭・生活・意識等の動向と問題点について、まとまった形のデータを作成し、解析している事例はあまり見られない。その最大の理由として、非正規滞在者が現行の法制度の下では「不法滞在者」「不法就労者」であり、「摘発」「退去強制」の対象となっていることが考えられる。従って、彼・彼女らに接触すること自体が容易なことではない。

1. 外国人支援団体APFS

我々は、外国人支援団体を介してこの困難を解決することとした。外国人支援団体にはさまざまな組織があり、その活動も様々であるが、我々が接触した団体は、東京都板橋区大山に活動拠点を設置しているAPFS (ASIAN PEOPLE'S FRIENDSHIP SOCIETY) という組織である。

このAPFSという組織は、1987年に数名の日本人とバングラデシュ人が中心になって、交流と友好、相互扶助を目的に設立され、2002年に設立15周年を迎えた³。本部は板橋区大山にあるが、群馬県に連絡所を設立する予定である。

APFSの主な活動は、外国人労働者及びその家族が抱えている様々な問題の相談を受け、それらを解決するための方策を打ち出すことにある。会員組織となっており、これまでの延べ会員数はおよそ2600人であるが、現在会費を支払っている会員数は約200人となっている。会員の国籍はバングラデシュ、イラン、フィリピン、ミャンマーが中心となっている。そして、会員の多くが非正規滞在者であることがこの組織の特徴と言える。会員の地理的分布は事務所のある板橋区周辺地域にももちろん多く分布するものの、群馬、栃木といった北関東をも含めた関東全域に広がっている。

組織の運営は会費および寄付金を中心にした資金によって賄われているが、人的には、日本人及び外国人のボランティアが組織を支えている。その活動内容の中でも特筆すべきものは、1999年に実施した「在留特別許可一斉行動」である⁴。

我々はAPFSの代表者である吉成勝男氏から2001年6月に、外国人労働者家族の世代間利害に関する状況についてレクチャーを受けた。その結果は「世代間利害調整研究プロジェクト」のホームページに公表した⁵。

我々は、2002年度の調査として、外国人への個別インタビューを企画し、その協力

³ APFS編『小冊子 APFS15年の歩み』(パンフレット、2002年)参照。APFSのホームページ(<http://www.jca.apc.org/apfs/>)参照。

⁴ 駒井洋・渡戸一郎・山脇啓造編『超過滞在外国人と在留特別許可』(明石書店、2000年)参照。

⁵ 依光正哲「外国人労働者の世代間利害に関する事例研究」(DP No.39)

をAPFSに依頼し、調査対象者として次の条件を提示した。即ち、日本滞在が比較的長期となっていること、子どもが中学生以上の年齢に達していること、在留資格は問わないこと、インタビューは外国人の自宅ないしその周辺で行うこと、調査対象世帯数を約20世帯とすること、などである。

2. 外国人向け無料健康診断の際のアンケート調査

2002年5月にこのインタビュー調査の実施に関してAPFSと打合せを行った。その席上、2002年7月14日に外国人向けの無料健康診断が板橋区において実施される予定であり、APFSがこの無料健康診断の共催団体となっていること、およそ120～130人の外国人を健康診断のために集まる見込みであること、などの情報を提供された。そこで、我々は、この無料健康診断に訪れた外国人に対してアンケート調査を実施することを申し入れたところ、APFSはこのアンケート調査にも協力することを確約した。

上記の健康診断の公式の事業名称は「在日外国人無料結核検診・健康相談会」であり、主催団体はSHARE（国際保健協力市民の会）、共催団体はAPFSと東京都健康局医療サービス部結核感染症課、となっている。

本年度「健康診断」の実施内容は、胸部レントゲン、尿検査、問診、血圧、身体計測、歯科相談、医科相談であり、同団体の集計では受診者は159名に上った。診断の結果は、直接本人に郵送で通知されることとなっている。

我々は、調査実施の決定にともない、アンケート調査票の作成作業に直ちに取組み、APFSとも質問項目等で調整を行った。最終的には、調査票を日本語版と英語版の2種類作成することとなった。この過程で連絡係として山田が、英文への翻訳作業およびレイアウトを菅谷が主として担当した。また、調査の趣旨を説明した日本語と英語を併記した「お願い文」も用意した。なお、調査票は本報告書の末尾に収録されている。

こうして、2002年7月14日（日）の健康診断の実施日に、健康診断の会場の入り口付近でアンケート調査を実施することとなった。

3. 調査実施の概要

以上のようにして、APFSと連携しながら、アンケート調査が実施された。このアンケート調査の概要は以下の通りである。

(1) 調査対象者

調査対象者は上記の無料健康診断に訪れた外国籍住民である。この無料健康診断の実施については、さまざまなメディアを通じて外国人住民に知られており、健康診断の受診者がAPFSの会員とは限らない。一般に、アンケート調査においては、調査対象者と母集団との関係が問題となる。ところが、今回の調査対象者は、日本国内に滞在している外国籍住民を母集団とすれば、その母集団から一定の比率で抽出されたサンプルではない。従

って、今回の調査の結果が、そのまま日本国内に滞在している外国籍住民の動向を代表しているわけではない。

(2) 実施日時、実施場所

2002年7月14日(日) 10:00-16:00 ごろまで

東京都板橋区 産文ホール

(3) 調査参加者

依光正哲、倉田良樹、宣元錫、山田優、黄英蓮、金昇謙、石崎直一、菅谷元英

(4) 調査票

英語表記と日本語表記の二種類を用意した。A4用紙1枚を2つ折にしたもので計4ページである。調査票は論文末尾の付属資料として掲載した。

(5) 回収数

無効と判定した5票を除外し、合計115票(英語表記:94票 日本語表記:21票)を回収数とした。

4. 調査結果に係る留意点

回収された調査票を点検した結果、調査対象者が質問の意味内容を正しく理解していないと思われる回答がかなり見られた。その理由としては、調査票で使用した用語の中に若干難しい用語があったこと、および対象者の大部分が日本語及び英語を母国語としていないこと、などが考えられる。特に家族状況の質問項目に関して、22のサンプルの回答に整合性に関して問題があった。以下のようなものがその具体例である。

- ・未婚であると答えているにもかかわらず、配偶者の所在地を回答している。
- ・日本に子供は滞在していないと回答しながら、他方では、子供を日本の学校に通わせていると回答している。
- ・1つだけ選択する回答となっているにも係らず、多数を選択している。

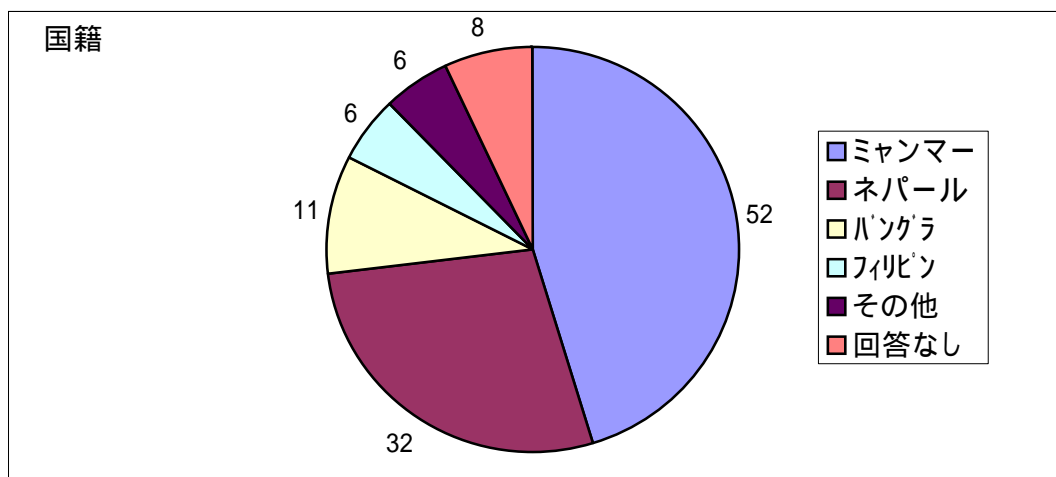
このような回答内容のサンプルをどのように扱うかに関しては、本稿がアンケートの項目ごとの単純集計を主体としているため、こうしたエラーを含んだサンプルを除外せずに集計作業を行うこととした。しかしながら、特に家族関係の項目についてはやや信頼性に欠けていることに留意する必要がある。データベースの作成に際しては、この種のエラーを含めたものとエラーのあるサンプルを除外したものの2種類を作成した。今後、我々がこの調査のデータを分析する場合には、どちらのデータを使用しているのかを明らかにす

ることとする。

第2節 アンケート調査結果の概要

既に記述した如く、この調査で分析対象となるサンプル数は115である。この115人については、我々が特定の基準でピックアップした人たちではなく、たまたま、無料健康相談会で受診した外国人のうち、我々の調査に協力し、回答が有効であった人々である。従って、この115サンプルは、日本に滞在する外国人をある一定の比率で代表しているわけではない。この点に留意しながら分析結果を活用することが求められる。

最初に指摘しておかねばならないことは、調査対象者の国籍分布である。下図に見られるように、この調査の特徴の1つは、ミャンマー人が52人、ネパール人が32人になり、この2国の出身者が全調査対象者の約74%を占めていることである。



日本におけるいわゆる外国人労働者の国籍別分布は正確には分からないが、法務省入国管理局の資料によれば、2002年1月現在の「不法残留者」数およびその国籍は以下のようになっている。

これまでのところ日本の外国人労働者、とりわけ非正規滞在の外国人については、その主要な出身国は韓国、中国、フィリピン、タイ、イランなどであった。そして、これらの国々からの外国人労働者に関する調査・研究はある程度なされてきた。しかし、ミャンマーやネパールの出身者に関することはほとんど取り上げられてこなかった。今回の調査において、調査対象者の大半がミャンマーやネパールの出身者であることは、これまでほぼ空白の状態であったミャンマーやネパールの出身者の状況を少しでの明らかにすることができた。他方、今回の調査の設計段階では、上記の2国の出身者が大半を占めることを予想できなかったために、やむを得ないことではあるが、2国の出身者に特徴的なことを引き出す調査票となつてはならず、折角の機会を逃す結果となった。

| 国 籍 | 不法残留者数 |
|--------|---------|
| 韓国 | 55,164 |
| フィリピン | 29,649 |
| 中国 | 27,582 |
| タイ | 16,925 |
| マレーシア | 10,097 |
| 中国(台湾) | 8,990 |
| ペルー | 7,744 |
| インドネシア | 6,393 |
| ミャンマー | 4,177 |
| スリランカ | 3,730 |
| その他 | 53,616 |
| 合 計 | 224,067 |

1. 調査対象者の特性

我々の調査票では、個人属性に関する質問項目は調査票の最後の部分に置かれていたが、本報告書では、上記のような制約があるために、調査結果の概要の冒頭において個人属性に関する事項を示すこととする。

(1) 性別と年齢

男子76人(66.1%)、女子32人(27.8%)、回答なし7名、であり、男女比はほぼ2:1となっている。

サンプルの年齢構成は以下のようになっている。

| 年齢階層 | 人 数 (%) |
|------|-------------|
| 20歳代 | 18 (15.6) |
| 30歳代 | 58 (50.5) |
| 40歳代 | 25 (21.7) |
| 50歳代 | 7 (6.1) |
| NA | 7 (6.1) |
| 合 計 | 115 (100.0) |

サンプルの年齢階層分布は、30歳代がほぼ半数を占め、40歳代が約20%、20歳代が15%となっており、30歳代を中心とした年齢階層分布状況をしめしている。

(2) 婚姻関係

婚姻関係では、既婚・独身の別、配偶者の国籍、配偶者の現在の住所を聞いた。

「あなたは結婚していますか？」という質問に対しては、「結婚している」が56人、「独身」が52人、無回答が7人、となっており、既婚者と未婚者の比率はほぼ半々となっている。

次に、配偶者の国籍であるが、「あなたの配偶者の国籍を教えてください。」という設問は、既婚者のみが回答する設計となっているにもかかわらず、未婚者が回答しているケースがあり、婚姻関係の数値とは齟齬をきたしている。しかし、この点について既に触れた如く、ここでは回答内容をそのまま示すこととする。

| 配偶者の国籍 | 人数 |
|-----------|----|
| ミャンマー | 33 |
| ネパール | 28 |
| バングラディッシュ | 1 |
| 日本 | 3 |
| その他 | 6 |

大まかな傾向としては、既婚者の配偶者はほとんどの場合、自国民となっている。ただ、少数ではあるが日本人の配偶者もみられる。

配偶者の現在の住所については、「あなたの配偶者の国籍を教えてください」という設問に対する回答結果を「日本での滞在期間」と関係させて示すこととする。一般的には、滞在が長期化することによって、母国からの「家族呼び寄せ」が多くなると考えられるが、今回の調査では、サンプル数が少なく、傾向を把握することはできない。

| 配偶者の住所 | 日本での滞在期間 | | | | 合計 |
|--------|----------|---------|-------|----|----|
| | 5年未満 | 5 - 10年 | 10年以上 | NA | |
| 母国 | 9 | 4 | 2 | 2 | 17 |
| 日本 | 16 | 11 | 9 | 7 | 43 |
| その他 | 2 | 2 | 0 | 0 | 4 |
| NA | 3 | 8 | 0 | 3 | 14 |

(3) 子どもの有無と子どもの数

子どもに関しては、「子どもの有無」「子どもの人数」「日本の学校に通っている子どもの有無」を聞いた。それらの設問に対する回答結果を示す場合に、「日本での滞在期間」とのクロス表を示した。各サンプルの「日本での滞在期間」は、「入国年次」から2002年7月時点での「滞在期間」を計測し、5年区切りにした。

あなたには子供がいますか、いるなら何人いますか。

日 本 で の 滞 在 期 間

| 子ども | 5年未満 | 5年以上10年未満 | 10年以上 | NA | 合計 |
|-----|------|-----------|-------|----|-----|
| いない | 19 | 22 | 10 | 6 | 57 |
| 4人 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| 3人 | 2 | 3 | 1 | 0 | 6 |
| 2人 | 6 | 1 | 1 | 2 | 10 |
| 1人 | 14 | 6 | 0 | 5 | 25 |
| NA | 5 | 4 | 6 | 1 | 16 |
| 合計 | 46 | 36 | 18 | 15 | 115 |

日本人の子どもの減少を外国人労働者で埋め合わせようとする移民導入論がある。他方、仮に外国人労働者の母国での出生行動が多産であっても、移住先での外国人労働者の出生行動は、その地域の一般的傾向に近づくとの指摘がある。

今回の調査結果は、外国人労働者の出生行動が日本人のそれに接近していることを読み取ることができる。

子どものうち何人が日本にいるのかという質問は、「家族呼び寄せ」とも関連し、個々の外国人労働者の滞在期間や定住に関する意向とも関連する問題であるが、ここでは調査データを示すにとどめる。

そのうち何人が日本にいますか。

日 本 で の 滞 在 期 間

| | 5年未満 | 5年～10年 | 10年以上 | NA | 合計 |
|-----|------|--------|-------|----|----|
| 1人 | 5 | 2 | 0 | 0 | 7 |
| 2人 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 3人 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| いない | 13 | 5 | 2 | 4 | 24 |
| NA | 13 | 7 | 6 | 4 | 30 |
| 合計 | 31 | 15 | 9 | 8 | 63 |

日本の学校に通っている子どもの人数

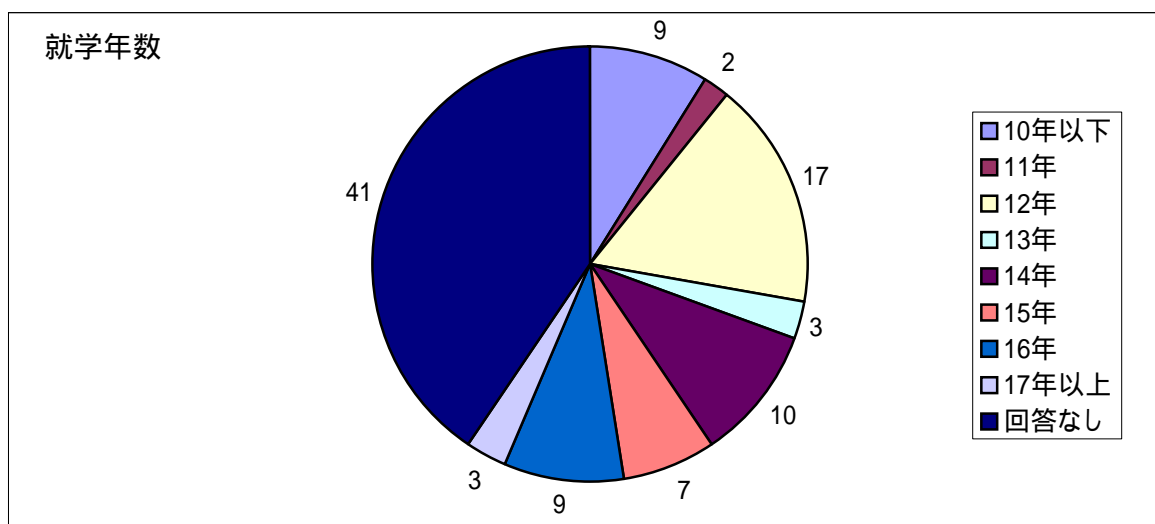
Q.2-2 その子供は日本の学校に通っていますか。

日 本 で の 滞 在 期 間

| 通学 | 5年未満 | 5年～10年未満 | 10年以上 | NA | 合計 |
|--------|------|----------|-------|----|----|
| 通っている | 3 | 3 | 0 | 0 | 6 |
| 通っていない | 10 | 3 | 1 | 1 | 15 |
| NA | 7 | 4 | 6 | 3 | 20 |
| 合計 | 20 | 10 | 7 | 4 | 41 |

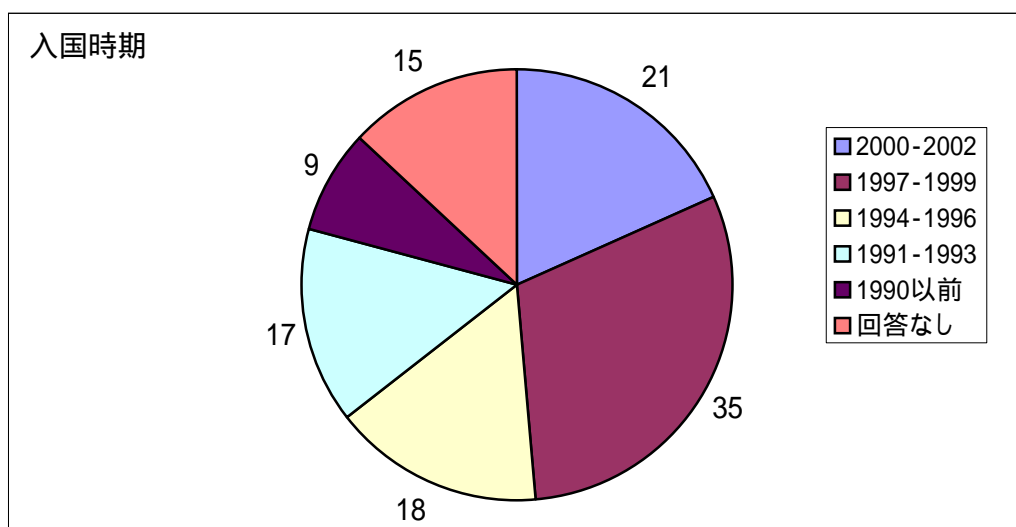
本人の母国での就学年数を我々は質問した。本来は「最終学歴」を問う設問であるが、今回のアンケート調査の調査対象者は「無料健康診断」の受診者であり、受診者はいろいろな国籍であることが予想されていた。教育制度はそれぞれの国によって異なるため、日本の教育制度による「学歴」の区分（小学校、中学校、高等学校、短期大学、大学、大学院）が調査対象者の母国と一致するとは限らない。そのために、我々は「就学年数」を質問することとした。しかし、この設問は必ずしもうまく機能しなかった。次の図に示されているように、回答なしのサンプルが約半数に達している。調査対象者は自分の就学年数をカウントして回答を求められており、回答するためのカウントが面倒になり、回答しなかった、ということが推察される。

我々は調査対象者の母国での教育水準に関する正確な知識をもっている訳ではないが、就学年数が10年以下の者は全体のほぼ1割にすぎず、調査対象者の学歴は決して低くない、と思われる。この点に関しては、母国での職業を扱う箇所でも再度取り上げる。



2. 日本への入国

(1) 日本への入国時期



上の図からは、入国して2年未満の者が約2割おり、比較的最近に入国している者がいることが分かる。日本は全体としては長期経済不況に陥っており、失業率も高い水準にとどまっているが、外国人労働者が新規に流入し続けている。他方では1990年以前に入国した人も見られる。

入国年次から2002年7月現在の各人の滞在期間を5年間隔で推計したものが下表である。この滞在区分は既に「こども」に関連する事項で活用している。

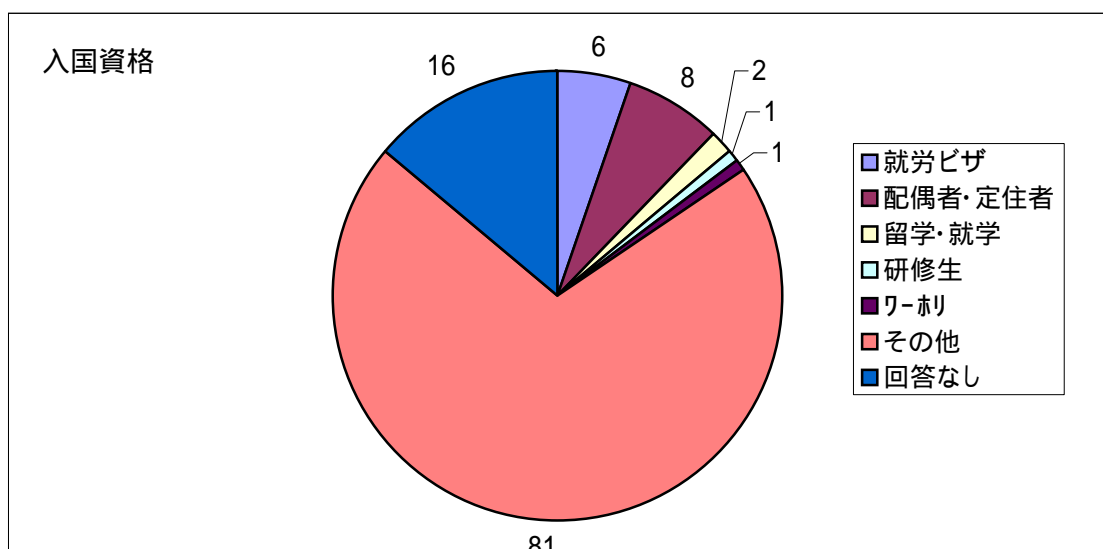
| 滞在期間 | 人数 |
|----------|-----|
| 5年未満 | 46 |
| 5年～10年未満 | 36 |
| 10年以上 | 18 |
| NA | 15 |
| 合計 | 115 |

この表から、調査対象者の滞在期間の長期化を読み取ることができる。

(2) 在留資格

在留資格についての回答は下図に見られるように、「就労ビザ」や「定住者」のビザ取得者は調査対象者の1割強に過ぎない。「その他」と回答している者と「回答なし」の者を合計するとほぼ9割が弱に達して、これらは「非正規滞在」と考えられる。

この調査では、当初から対象者の大半が「非正規滞在者」となることを予想していたが、この項目によって、我々の調査対象者の大部分が非正規滞在者であることが明白となった。



3. 仕事と賃金

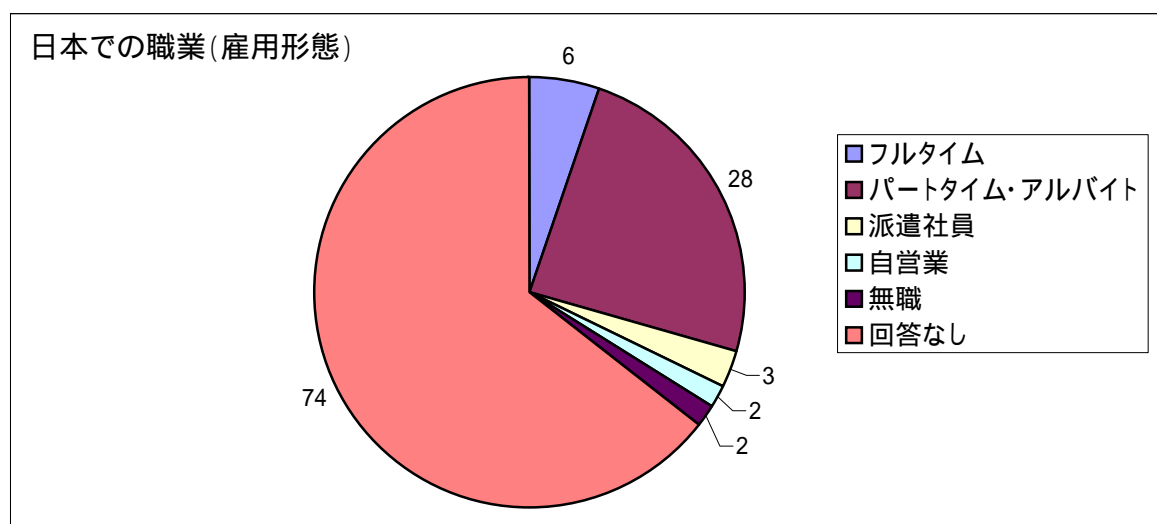
(1) 母国での仕事と日本での仕事

我々は「あなたの母国での出国直前の仕事は何でしたか」という質問と「現在は、どんな仕事をしていますか」という質問を行った。この質問は、選択肢をあらかじめ用意する方式をとらず、自由記入方式とした。以下の表は、回答者の回答を分類したものである。外国人労働者に見られる特徴として、母国での職業と日本での職業がことなることが指摘されている。上の表からも分かるように、母国での職業と日本での職業が一致している方が少ない。そして、今回の調査対象者に特徴的なことは、日本での職業のトップが「飲食業」となっていることである。さらに、母国では「教師」「技術・専門職」「学生」であった者が約3割強の比率を占めているが、彼・彼女らは日本ではブルーカラーの仕事に就いていることである。このことは、個人の職業能力をフルに活用していないことを意味し、しかも、個人の職業キャリアにはプラスにはならないばかりでなく、個人のストレスを増幅することになる。

勿論、外国人労働者は母国を出るときは、お金を稼ぐために自己のこれまでの経歴をすべて異国で仕事をすることを覚悟しているであろう。しかし、滞在期間が長期化することとなれば、滞在先での日々の生活だけでなく職業生活の展望をも考えることとなる。つまり、母国での仕事との継続性がないこと、将来の職業生活への不安などを感じるようになり、現状への不満がつのることになる。マクロ・ミクロのいずれの観点からも労働力の「非効率活用」という現象が発生することになる。

| 職業分類 | 母国での職業 | 日本での職業 |
|----------|--------|--------|
| 製造業 | - | 13 |
| 梱包業 | - | 3 |
| 飲食業 | 2 | 43 |
| メンテナンス業 | 1 | 1 |
| 販売業 | - | 3 |
| 教師 | 9 | - |
| 技術・専門職 | 6 | 3 |
| 農業・漁業 | 4 | - |
| 自営業 | 5 | 1 |
| 会社員 | 2 | - |
| 旅行業 | 6 | 1 |
| その他 | 5 | 5 |
| 無職(主婦含む) | 25 | 3 |
| 学生 | 24 | - |
| 職業不明 | 8 | 9 |
| NA(回答なし) | 18 | 30 |
| 合計 | 115 | 115 |

(2) 日本での雇用形態



雇用形態に関する質問への回答状況は、上表に示されている通り、約7割の対象者が回答していない。このような結果となった最大の要因は、この質問が「自由回答」方式をとり、回答者は「日本語」か「英語」で「雇用形態」を回答することを求められたことである。

る。さらに、多くの回答者は、「雇用形態」が何を意味するのかを理解出来なかった、とも考えられる。

回答した者の中では、「フルタイム」で雇用されている者が少なく、大半は「パート・アルバイト」の雇用となっている。

(3) 平均月収

収入に関するアンケート調査の回答は必ずしも正確とは言えない。特に、パート・アルバイトの雇用形態で、出勤日収や勤務時間が一定していない場合は、月収の変動が激しい。従って、回答者は月収の平均値を計算しなければならない。また、どの期間の平均なのかは人によってぶれる。

| 平均月収 | 人数 |
|----------|-----|
| 収入なし | 3 |
| 10万円未満 | 13 |
| 10万 12万円 | 11 |
| 12万 14万円 | 6 |
| 14万 16万円 | 18 |
| 16万 18万円 | 16 |
| 18万 20万円 | 5 |
| 20万円以上 | 0 |
| 回答なし | 15 |
| 合計 | 115 |

このように、平均月収の回答結果は実態をどの程度反映しているかを吟味する必要があるが、今回の調査結果では、賃金レベルがかなり低くなっている。2つのことが考えられる。第1は、女性の賃金レベルが10万円前後と低いために、調査対象者全体の賃金レベルを下げていることであり、第2は、飲食業を中心にサービス関連職業に就労している者が多く、全般的に賃金レベルが低いこと、である。

4. 外国人労働者と母国との関係

(1) 母国への送金

送金の有無や送金金額は、外国人労働者と母国との関係の濃淡によってさまざまである。今回の調査では、滞在期間の長期化が送金額の減少となっていることを示している。当然のことながら、滞在期間の長期化は「家族の呼び寄せ」を伴い、そのことが母国への送金の必要性を減じることとなる。

| 滞在期間 | 人数 | 送金者数 | 平均送金額(円) |
|----------|-----|------|----------|
| 5年未満 | 46 | | 50,449 |
| 5年～10年未満 | 36 | | 39,885 |
| 10年以上 | 18 | | 35,033 |
| NA | 15 | | 54,673 |
| 合計 | 115 | | 45,010 |

送金の有無を独身・既婚の別で示したものが下の表である。既婚者よりも独身の方が送金している者の比率が高くなっている。

| 送金の有無 | 独身者 | 既婚者 | 回答なし | 合計 |
|---------|-----------|-----------|------|------------|
| 送金している | 26(68.4) | 30(53.6) | 17 | 73(63.5) |
| 送金していない | 7(18.4) | 18(32.1) | 1 | 26(22.6) |
| 回答なし | 5 | 8 | 3 | 16 |
| 合計 | 38(100.0) | 56(100.0) | 21 | 115(100.0) |

(2) 家族呼び寄せ

家族の呼び寄せについては、「あなたには、日本に呼び寄せたい家族がいますか。」という質問をすると同時に、「呼び寄せたい理由」および「呼び寄せない理由」を聞いた。

あなたには、日本に呼び寄せたい家族がいますか。

| | 5年未満 | 5年～10年未満 | 10年以上 | 無回答 | 合計 |
|-----|------|----------|-------|-----|-----|
| いる | 13 | 6 | 5 | 2 | 26 |
| いない | 26 | 27 | 9 | 11 | 73 |
| 無回答 | 7 | 3 | 4 | 2 | 16 |
| 合計 | 46 | 36 | 18 | 15 | 115 |

全体の傾向としては、滞在期間が長期化すると家族「呼び寄せ」の意向が低下するように見える。これは、滞在が長期化した人々は家族の呼び寄せを既に行なったためとも考えられるが、逆に、独身者で滞在が長期化した者は帰国を望むことも考えられる。いずれにせよ、このデータだけではあまり明確なことは言えない。

そこで、呼び寄せに関する理由の具体的記述を示し、調査サンプルの「なまの声」を再現することとする。

「呼び寄せたい人がある」と答えた人の呼び寄せ理由としては、以下のような記述が見ら

れた。

- ・ホームシックだから。(ミャンマー)
- ・一緒に暮らしたいから。(ミャンマー)
- ・子供を学校にいかせたいから。(ミャンマー)
- ・ただ来て欲しい。(ミャンマー)
- ・旅行に来て欲しい。(ネパール)
- ・会いに来て欲しい。(ネパール): 2人
- ・日本は美しい国であり、日本の文化が好きであり、生活が楽だから。(ネパール)
- ・お金を稼ぐため。(ネパール)
- ・日本のライフスタイルを知ることができるから是非来て欲しい。(フィリピン)
- ・日本の方がよい職につけるから。(フィリピン)
- ・娘と一緒に暮らしたいから。(フィリピン)
- ・よい教育を受けさせるため。(ネパール)
- ・母国は政治的に不安定であり、しばしば学校が閉鎖されるから。(ネパール?)

などである。

「呼び寄せたい人がいない」と答えた人の「呼び寄せ」をしない理由に関する記述は以下の通りである。

- ・仕事が大変だから。(ミャンマー)
- ・まもなく帰るから。(ミャンマー)
- ・生活費がかかるから。(ミャンマー)
- ・生活が苦しいから。(ミャンマー)
- ・お金がないから。(ネパール)
- ・(母国で)子供が学校に通っているから。(ネパール)
- ・日本の生活が大変だから。(ネパール)
- ・日本では難しいことばかりだから。(ネパール)
- ・あと3年で母国に帰りたいと思っているから日本には連れて来れない。(バングラ)
- ・ビザについての深刻な問題があるから。(ネパール)
- ・生活が大変であるから。(ネパール?)

などである。

5. 親子関係

親子の関係はさまざまなレベルが考えられるが、このアンケートでは、異文化の環境の下で外国人が生活するときに、親子間の「対話」が行われているのか、その対話は何語で行われているのか、こども同士は何語で意思疎通しているのか、などを聞いている。

(1) 親子の対話

あなたの家庭では、重要な問題について親と子で対話が行われていますか。

| | 5年未満 | 5年～10年未満 | 10年以上 | 無回答 | 合計 |
|---------|------|----------|-------|-----|------------|
| 行われている | 16 | 14 | 7 | 4 | 41 |
| 行われていない | 20 | 13 | 4 | 8 | 45 |
| 無回答 | 10 | 9 | 7 | 3 | 29 |
| 合計 | 46 | 36 | 18 | 15 | 115(100.0) |

重要な問題に関する親子間の対話がおこなわれているケースと行われていないケースはほぼ半々となっているが、親の滞在期間の違いによって対話の有無に差は見られない。

(2) 親子の間の言語

子どもが使う言語は、出生地が母国か移住先かによって大きく異なる。母国で生まれた子どもは、移住当初は母国語のみしか使えないが、徐々に移住先の言語に慣れ、堪能となってゆく。さらに、子どもの言語に関する成長過程は2つに分岐してゆく。一方は、2つの言語を駆使する方向へと進む。もう一方は、母国語をほとんど忘れて移住先の言語のみを使うこととなる。もちろんその中間にいくつかのバリエーションがあるが、基本はこの2つとなる。

親子関係で現実問題となることは、親の日本語能力と子どもの母国語能力との組み合わせである。単純化して表図すると、次のようになる。

| 親の日本語能力 | 子どもの母国語能力 | |
|---------|-----------|------|
| | できる | できない |
| できる | A | C |
| できない | B | D |

親子間でコミュニケーションをとる場合、言語の面で問題がなければ相互のコミュニケーションがとれるということではないが、まずはその手段としての言語が重要となる。上の表で親と子の言語能力がAタイプである場合には、相互にコミュニケーションをとる上では最も問題が少ない。他方、Dタイプの場合は、相互にコミュニケーションをとることが困難となり、深刻な問題を抱えることとなる。

我々の調査対象者に対して、親子の間でどの言語を使用しているのかを問うた結果、次のような回答分布となった。家庭での日本語使用は皆無であり、基本的には日本での滞在期間の長短とは関係なく、母国語が使用されていることが判明した。

あなたの家庭では、何語を使っていますか。(親子間で)

| | 5年未満 | 5年～10年未満 | 10年以上 | 無回答 | 合計 |
|---------|------|----------|-------|-----|-----|
| 母国語 | 30 | 20 | 8 | 3 | 61 |
| 日本語 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 母国語と日本語 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 母国語と英語 | 2 | 3 | 1 | 1 | 7 |
| 無回答 | 14 | 13 | 9 | 11 | 47 |
| 合計 | 46 | 36 | 18 | 15 | 115 |

次に、家庭内で子ども同士ではどの言語を使用しているのかを質問した。この質問への回答率は極めて低く、この問題に関して、回答者である親の関心が低いことを如実に表している。親は母国語でコミュニケーションをとることが当たり前と考えており、子どもが母国語を話し、理解することを当然と考えているのであろう。しかし、子どもは必ずしもそのようには考えていない。また、親も子どもの考え方を把握していないと思われる。

あなたの家庭では、何語を使っていますか。(子供どうしで)

| | 5年未満 | 5年～10年未満 | 10年以上 | 無回答 | 合計 |
|---------|------|----------|-------|-----|-----|
| 母国語 | 7 | 8 | 3 | 4 | 22 |
| 日本語 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| 母国語と日本語 | 1 | 4 | 0 | 0 | 5 |
| 母国語と英語 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 無回答 | 38 | 23 | 15 | 11 | 87 |
| 合計 | 46 | 36 | 18 | 15 | 115 |

さらに、家庭内で子どもに母国の「文化」や「伝統」をどのように伝えているのかを問うた。この質問への回答率もあまり芳しくない。約4分の1のサンプルで、母国の生活や習慣を子どもに教えている、との回答であるが、滞在期間の違いによる一定の傾向などは見られない。

Q.7 あなたの家庭では、子供に母国の生活や習慣を教えていますか。

| | 5年未満 | 5年～10年未満 | 10年以上 | 無回答 | 合計 |
|--------|------|----------|-------|-----|-----|
| 教えている | 15 | 8 | 4 | 4 | 31 |
| 教えていない | 5 | 6 | 1 | 3 | 15 |
| 調査対象者数 | 46 | 36 | 18 | 15 | 115 |

6. 外国人としての不利益

外国人はどのようなことに「外国人」であるが故の「不利益」を感じているのかを「生活面」と「仕事面」に関してマルチアンサー方式で質問した。生活面での不利益と感ずる事項への回答頻度を示したものが下の表である。

(1) 生活面での不利益

最も回答頻度の多い項目は「医療保険への加入に関する不利」である。比較的滞在期間が短い者は、自分は健康で病気にはかからないと考え、また家族を連れてきていない場合は、医療に関する保険料を節約することを考える傾向にある。しかし、家族を呼び寄せ、滞在期間が長くなると、自分だけでなく家族の病気への対処を迫られ、医療保険への非加入がいかにリスクが多いかを実感することになる。このことは、滞在期間が10年以上経過した者の全員が「医療保険への加入」に関する不利な点を回答していることに端的に表れている。

| 項 目 | 日 本 で の 滞 在 期 間 | | | | 合 計 |
|---------------|-----------------|---------|-------|------|-----|
| | 5年未満 | 5 - 10年 | 10年以上 | 回答なし | |
| 住宅確保 | 16 | 12 | 11 | 5 | 44 |
| 結婚問題 | 2 | 2 | 2 | 0 | 6 |
| 医療保険への加入に不利 | 26 | 16 | 18 | 5 | 65 |
| 生活保護が受けられない | 8 | 6 | 7 | 3 | 24 |
| 警察の取り締まり | 10 | 5 | 5 | 3 | 23 |
| 入管の取り締まり | 12 | 7 | 6 | 2 | 27 |
| 子どもが不利な扱いを受ける | 2 | 6 | 1 | 1 | 10 |
| その他 | 4 | 4 | 2 | 1 | 11 |
| 調査対象者数 | 46 | 36 | 18 | 15 | 115 |

医療保険に次いで、住宅の確保の上で不利であることを選択する頻度が高くなっている。しかも、滞在期間が10年を超える者の6割が住宅の確保で不利な経験をしていることになる。滞在期間が短い者は、単身者が多く、企業が用意した社宅やアパートに住むことが多いが、滞在が長期化し、家族を呼び寄せた場合、家族用の住宅を確保する必要があり、住宅確保で苦労している姿が浮かび上がってくる。

他方、警察や入管への「恐怖」は滞在期間の長短に関係なく、根強く潜んでいると言える。

(2) 仕事面での不利益

生活面での不利益に比して、「仕事面」での不利益に関する回答頻度はそれほど高くない。

回答頻度が低いので、確定的なことは言えないが、仕事面での「不利益」を感じたり、「不満」を抱く比率は、長期滞在者の方が高い。

| 不利益の内容 | 日本での滞在期間 | | | | 合計 |
|-------------|----------|---------|-------|------|-----|
| | 5年未満 | 5 - 10年 | 10年以上 | 回答なし | |
| 失業・不法解雇 | 8 | 5 | 5 | 0 | 18 |
| 悪い職場環境に回される | 4 | 4 | 2 | 1 | 11 |
| 待遇・労働条件・労災 | 6 | 6 | 6 | 0 | 18 |
| 賃金不払い | 3 | 2 | 2 | 0 | 7 |
| 雇用主との関係 | 3 | 2 | 2 | 0 | 7 |
| その他 | 7 | 4 | 2 | 0 | 13 |
| 調査対象者数 | 46 | 36 | 18 | 15 | 115 |

(3) 差別された経験

我々は「日本社会および日本人から何か差別された経験はありますか」という質問をした。その結果、男性25人、女性12人が「差別」された経験がある、と回答している。

さらに、「日本で生活していて最も腹が立ったことはなんでしょうか」という質問に選択肢を用意し、1つだけ選択してもらった。その回答結果を男女別に示したものが下表である。

| 腹立つこと | 男性 | 女性 | 回答なし | 合計 |
|----------|----|----|------|-----|
| 仕事での差別 | 22 | 5 | 1 | 28 |
| 住居の差別 | 5 | 4 | | 9 |
| 子どもへのいじめ | 1 | | | 1 |
| 日本の教育制度 | 3 | | | 3 |
| 文化への差別 | 7 | 1 | | 8 |
| その他 | 5 | 4 | 1 | 10 |
| 回答なし | 33 | 18 | 5 | 56 |
| 調査対象者数 | 76 | 32 | 7 | 115 |

約半数の者が回答しているにすぎないが、仕事での差別に腹を立てている者の比率が最も高く、その他のことを選択した者の比率はむしろ低い結果となっている。

そして、我々は「もし非正規滞在にともなう不利益がなにかあれば、具体的に教えてください。」という質問を発し、自由記入方式で記入してもらった。以下に、記述されたものを列挙しておく。

- ・日本で特に不満はない。(ミャンマー): 2人

- ・いつもビクビクしなければならない。(ミャンマー): 2人
- ・日本の外に出れない。(ネパール)
- ・モラルの低下。自由に何かが出来ない。(ネパール)
- ・低い賃金と職場環境と警察の手入れ。(バングラ)
- ・私達のもっとも深刻な問題だ。(バングラ)
- ・私の希望や意志に合わせて行動が出来ない。(バングラ)
- ・教育、仕事、移動といった面で大変な障害がある。(イラン)
- ・言葉の問題(ネパール?)

7. 定住化に関する意識

全調査対象者の約 4 割弱の人が「日本に居続けたい」と考えている。この数値が高いのか低いのかは必ずしも明確ではないが、既婚者と独身者を比較すると、独身者の方が「日本に居続けたい」と考えている比率が高い。同じことであるが、既婚者は「母国に帰りたい」と考える者の比率が独身者よりも高い。恐らく、既婚者の内部が 2 つに分かれ、家族呼び寄せを達成した者は「日本」での生活を選び、家族の呼び寄せが出来なかった者あるいは呼び寄せを選択しなかった者は、「母国への帰国」を望むこととなる。

| | 独身 | 既婚 | 無回答 | 合計 |
|-----------|----|----|-----|-----|
| 日本に居続けたい | 16 | 25 | 2 | 43 |
| 母国に帰国したい | 8 | 30 | | 38 |
| 他の国にゆきたい | 2 | 7 | 1 | 10 |
| 考えていない | 3 | 7 | 1 | 11 |
| わからない、無回答 | 3 | 7 | 3 | 12 |
| 総計 | 32 | 76 | 7 | 115 |

日本滞在か母国への帰国か、という問題に関して、我々は、「あなたの日本にいるお子様はどう考えていますか」および「お子様以外の家族の方はどう考えていますか」という 2 つの追加質問をおこなっている。その結果を以下に示してあるが、やはり「他人がどう考えているか」という設問には、回答する側にとっては回答し難いものであろう。また、たとえ回答がなされても、推察の域を出ない場合が多くなるであろう。

| | 子ども | 家族 |
|-----------|-----|-----|
| 日本に居続けたい | 5 | 6 |
| 母国に帰国したい | 6 | 10 |
| 他の国にゆきたい | 3 | 4 |
| 考えていない | 3 | 13 |
| わからない、無回答 | 98 | 82 |
| 総計 | 115 | 115 |

日本に滞在し続けた理由に関してはマルチアンサー方式での設問を用意した。その回答頻度を男女別に示したものが下表である。回答頻度が高い項目は、生活面での「日本の安全性」と「利便性」、および仕事の面での「日本の雇用機会」と「母国では仕事がないこと」である。

個々の点では日本での生活と労働に問題を感じながらも、母国との対比で考えると、日本での生活は便利で安全であり、日本では稼ぐことができるが、母国はその逆になっているために、母国へは帰らず、これまで日本に滞在し続けたことになる。この点は男女の間で大きな差が見られない。

| 日本に滞在し続けた理由 | 男性 | 女性 | 合計 |
|------------------|----|----|-----|
| 生活が便利だから | 18 | 13 | 31 |
| 収入が高く稼ぎが良いから | 20 | 12 | 32 |
| 母国には仕事がないから | 25 | 12 | 37 |
| 日本は安全だから | 28 | 11 | 39 |
| 子どもが帰りたがらないから | 3 | 1 | 4 |
| 母国に適應できないから | 8 | 2 | 10 |
| 生活基盤が日本にあるから | 6 | 1 | 7 |
| 借金をかえさなければならないから | 4 | 1 | 5 |
| その他 | 9 | 2 | 11 |
| 調査対象者数 | 76 | 32 | 115 |

日本の社会や行政に対する要望をマルチアンサーで聞いた結果は以下のようになった。

| 要望事項 | 男性 | 女性 | 回答なし | 合計 |
|---------------|----|----|------|-----|
| 医療保険への加入 | 26 | 14 | 2 | 42 |
| 生活保護の適用 | 20 | 4 | | 24 |
| 日本語教育の充実 | 25 | 5 | | 30 |
| 健康相談 | 25 | 11 | | 36 |
| 母国語による情報提供 | 15 | 6 | | 21 |
| 職場での日本人との同等待遇 | 20 | 7 | | 27 |
| 悪質な企業への取り締まり | 9 | 2 | | 11 |
| その他 | 8 | 2 | | 10 |
| 調査対象者数 | 76 | 32 | 2 | 115 |

我々は、調査票の末尾に「何かご意見があればお書きください」として、自由記述欄を設け、調査対象者から自由な意見を引き出すことを試みた。本稿の最後に、この自由記入欄へのコメント等を再録することとする。()内に国籍を付記した。

- ・あなたたちのやっていることに感謝します。(ミャンマー)
- ・日本に来たことに感謝している。世界で最も礼儀正しい国だ... <以下意味不明> (ミャンマー)
- ・合法的地位が欲しい。そして学のある人間になるために勉強したい。(ミャンマー)
- ・ボランティアの健康診断に感謝します。(ミャンマー)
- ・こうした調査は日本の非日本人を知るために興味深いことでしょう。(ミャンマー)
- ・キビシイ(ミャンマー)
- ・建設現場と鉄工所で働いていたが、今はクビになった。(ミャンマー)
- ・外国人にとって健康診断は最も重要。(ミャンマー)
- ・同じ仕事なら同じ待遇にしてほしい。(ネパール)
- ・年齢、性による差別をなくしてほしい。(ネパール)
- ・日本人は教育の早い段階で英語を学ぶべきだ。(ネパール)
- ・私達が望むのは、1.合法ビザ、2.医療、3.雇用の保障、4.容易に住居が得られること、5.平等な扱い。(ネパール)
- ・合法的に日本に住みたい。日本にもグリーンカードシステム(アメリカの外国人が居住年数によって市民権を得られること)があるべきだ。(ネパール)
- ・おそらく日本は世界でも美しい平和な国だ。しかし日本人はグローバルな意識ではない。世界は21世紀に向けて動いている。だから日本人はより多様な世界への視野を広げるべきだ。(ネパール)
- ・外国人への差別をしないで欲しい。(ネパール)
- ・日本にありがとう。(バングラ)

- ・ A P F S ありがとう。(バングラ)
- ・ A P F S は大変良いことをしている。(バングラ)
- ・ A P F S よ、助けてくれてありがとう。(バングラ)
- ・ 医療保険をしっかりやってほしい。日本でなった病気だから日本で治して欲しい。(バングラ)
- ・ このサービスはたいへんよい。社会は助けてくれている。ありがとう。(インド)
- ・ 私の妻は妊娠しており、ここ数ヶ月間に彼女の出産の不安を和らげるいかなる補助を必要としている。(イラン)
- ・ これは外国人のにとっていい機会だ。続けてください。ありがとう。(インド): 2人

以上の記入事例には感謝の言葉が多いが、健康診断をセッティングした機関への率直な感謝の気持ちの表れであろう。非正規滞在の外国籍住民にとって、健康問題がいかに切実な問題であるのかということを端的に表している。この問題は、日本社会が外国人に対する社会保障制度をどのように設計するのかということが基本となるが、制度の運用に際しては、外国人労働者自身が「コスト負担」を自覚することも重要な点となるであろう。

付属資料：アンケート調査協力へのお願い文

(日本語)

2002年7月14日

アンケート調査へのご協力のお願い

私たちは、一橋大学大学院の大学院生です。今日は、APFSとともに、日本にいる外国人労働者の生活問題や家族の問題についてアンケートをすることになりました。

このアンケートの目的は、親と子どもの意識の差に注目し、外国人労働者およびその家族が直面している問題を明らかにし、適切な対策を考えることです。

この調査は学術目的にのみ使われ、個々のデータは統計的に分析されます。また、個人のお名前や回答内容を他人に教えることは絶対にありません。どうか、ありのままをお答えください。

よろしくご協力のほどをお願いします。

なお、この調査の責任者は下記の通りです。

一橋大学大学院 社会学研究科
依光研究室 教授 依光 正哲

(English)

July 14, 2002

Request for Answering the Questionnaire of Survey

We are the graduate school students in Hitotsubashi University, Division of Social Sciences. Today we ask you to answer the questionnaire about the issue of life and family for foreign workers in cooperation with APFS. The goal of this survey is considerate proper social policy to focus on the gap of consciousness between parents and children for making clear what problems they have faced with.

The results of this survey are going to be used for academic work only. In addition, each dataset are going to be analyzed statistically. Then we never tell your name and the contents of your answer to others. So, please answer with making you naturally.

The person of in charge of this research is as follows.

Hitotsubashi University, Division of Social Sciences
Yorimitsu Laboratory, Prof. Yorimitsu Masatoshi.

Q5. あなたの家庭では、重要な問題について親と子で対話がおこなわれていますか。

| | |
|------|-------|
| 1 はい | 2 いいえ |
|------|-------|

Q6. あなたの家庭では、何語を使っていますか。

| | |
|-----------|-------------|
| 親子間で:()語 | 子供どうして:()語 |
|-----------|-------------|

Q7. あなたの家庭では、子供に母国の生活や習慣を教えていますか。

| | |
|------|-------|
| 1 はい | 2 いいえ |
|------|-------|

《「外国人」としての不利益》

次に、日本で暮らすうえで、「外国人」として受ける不利益についておききします

Q8. 「外国人」であるということにともなう不利益にはどのようなものがありますか。次の中から、あてはまるものをすべて選んでください。

Q8-1. 生活面

| | |
|----------------|---------------|
| 1 住居確保 | 2 結婚問題 |
| 3 医療保険の加入に不利 | 4 生活保護が受けられない |
| 5 警察の取締り | 6 入管の取締り |
| 7 子供が不利な扱いを受ける | 8 その他() |

Q8-2. 仕事面

| | |
|------------------------|---------------|
| 1 失業・不法解雇 | 2 悪い職場環境に回される |
| 3 待遇・労働条件・労災 | 4 賃金・不払い |
| 5 雇用主との関係(だまし、脅し、違法契約) | 6 その他() |

Q9. もし非正規滞在にとともなう不利益がなにかあれば、具体的におしえてください。

| |
|-----|
| () |
|-----|

《日本での滞在》

次に、日本での滞在についておききします

Q10. あなたは、これからも日本に居続けたいと思いますか。次の中から最もあてはまるものを1つ選んでください。

- | |
|------------|
| 1 日本に居続けたい |
| 2 母国に帰国したい |
| 3 他の国に行きたい |
| 4 考えていない |

Q11. あなたの日本にいるお子様はどう考えていますか。次の中から最もあてはまるものを1つ選んでください。

- | |
|------------|
| 1 日本に居続けたい |
| 2 母国に帰国したい |
| 3 他の国に行きたい |
| 4 考えていない |

Q12. あなたの日本にいるお子様以外の家族の方はどう考えていますか。次の中から最もあてはまるものを1つ選んでください。

- | |
|------------|
| 1 日本に居続けたい |
| 2 母国に帰国したい |
| 3 他の国に行きたい |
| 4 考えていない |

Q13. あなたは今後どのくらい日本に居続けるつもりですか。

約()年

Q14. あなたが今まで日本に滞在しつづけた理由は何ですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1 生活が便利だから | 2 収入が高く稼ぎが良いから |
| 3 母国には仕事がないから | 4 日本は安全だから |
| 5 子どもが帰りたいがらないから | 6 母国に適應できないから |
| 7 生活基盤が日本にあるから | 8 借金を返さなければならないから |
| 9 その他() | |

Q15. あなたには、日本人の頼れる親しい友人はいますか。

- | | |
|------|-------|
| 1 はい | 2 いいえ |
|------|-------|

《日本社会や政府・行政について》

＊ ＊次に、日本の社会や行政についておききします＊ ＊

Q16. 日本社会や行政に対し当面どうしてほしいと思いますか。次の中から当てはまるものをすべて選んでください。

| | |
|--------------|-----------------|
| 1 医療保険の加入 | 2 生活保護の適応 |
| 3 日本語教育の充実 | 4 健康相談 |
| 5 母国語による情報提供 | 6 職場での日本人と同等の待遇 |
| 7 悪質な企業への取締り | 8 その他 () |

Q17. 日本社会及び日本人から何か差別された経験はありますか。

| | |
|------|-------|
| 1 はい | 2 いいえ |
|------|-------|

Q18. 日本で生活していて最も腹が立ったことはなんでしょうか。次の中から 1つ選んでください。

| | |
|--------------------|-----------|
| 1 仕事での差別 | 2 住居の差別 |
| 3 子どもへのいじめ | 4 日本の教育制度 |
| 5 文化（宗教・食文化など）への差別 | 6 その他 () |

Q19. あなた自身のことについておききします。以下の項目についておしえてください。

| | |
|------|---|
| 年齢 | () 才 |
| 性別 | 1 男性 2 女性 |
| 国籍 | () |
| 入国時期 | () 年 |
| 在留資格 | 1 就労ビザ 2 日本人の配偶者・定住者 3 留学・就学 4 研修生 5 ワーキングホリデー 6 その他 |
| 就学年数 | 約 () 年 (母国での就学年数) |

Q20. あなたの母国での出国直前の仕事は何でしたか。

| |
|-----|
| () |
|-----|

Q21. 現在は、どんな仕事をしていますか。

| |
|------------|
| (仕事内容 :) |
| (雇用形態 :) |

Q22. あなたの平均月収はいくらですか。

| |
|---------|
| 約 () 円 |
|---------|

＊以上で質問は終わります。何かご意見があればお書きください。ご協力ありがとうございます。
た＊

| |
|--|
| |
|--|

<<Japanese Society and Governments >>

**Lastly, we will ask you about the issues of Japanese society and governments **

Q16. What do you want Japanese society and governments to do for you now? Circle **all** that applies to you from the list below.

| |
|--|
| <p>1 To allow you to get medical insurance</p> <p>2 To allow you to receive public assistance (livelihood protection)</p> <p>3 To offer better Japanese language education program</p> <p>4 To offer health consultation</p> <p>5 To offer information in your native language</p> <p>6 To treat you equally to your Japanese colleagues at your workplace</p> <p>7 To regulate excessively bad companies</p> <p>8 Other ()</p> |
|--|

Q17. Have you experienced any discrimination by Japanese society and Japanese people?

| |
|------------------------|
| <p>1 Yes 2 No</p> |
|------------------------|

Q18. What made you upset the most while living in Japan? Choose **one** that applies to you the most from the list below.

| | |
|--|---|
| <p>1 Occupational discrimination</p> <p>3 Bullying to your children</p> <p>5 Cultural discrimination (religion, food culture etc.)</p> | <p>2 Housing discrimination</p> <p>4 Japanese education system</p> <p>6 Other ()</p> |
|--|---|

Q19. Please tell us your age, sex, nationality, year of first entrance into Japan, legal status in Japan and years of education.

| | |
|------------------------------|---|
| Age | () years old |
| Sex | 1 male 2 female |
| Nationality | () |
| Year of Entrance | () (i.e. 1995) |
| Legal Status in Japan | <p>1 Working Visa 2 Spouse of Japanese / Permanent Resident</p> <p>3 Student Visa 4 Trainee</p> <p>5 Working Holiday 6 Other</p> |
| Years of Education | about () years (in your home country) |

Q20. What was your occupation in your home country just before leaving for Japan?

| |
|-----|
| () |
|-----|

Q21. What is your occupation? Please describe in the column below.

| |
|---------------------------------|
| Job Task : () |
| Form of Employment : () |

Q22. On average, how much money do you earn per month?

| |
|---------------|
| about () Yen |
|---------------|

*****This is the end of the question*****

If you have any comments, please write them down on the space below. Thank you for your cooperation.

| |
|--|
| |
|--|